

いろしずく

彩雫

中川運河の魅力とはなんだろうか？

水上スポーツやアートイベントなど、「非日常」な催しが行われるが、「日常の魅力」とは一体何なのか？

その魅力はなんと言っても運河自身が保有する

水から生まれる「豊かな表情」では無いか？

静寂な水面は都市や環境を映す大きな鏡となり、

風が吹けば宝石のように様々な色と共にキラキラと輝く。

水の無限の可能性を街への視覚化の「装置」として、

表現することは出来ないか？

私達は中川運河の魅力を引き出す「彩雫」を提案する。

「彩雫」は朝夕夜の空の移り変わり、水位の変化を人為的自然現象として

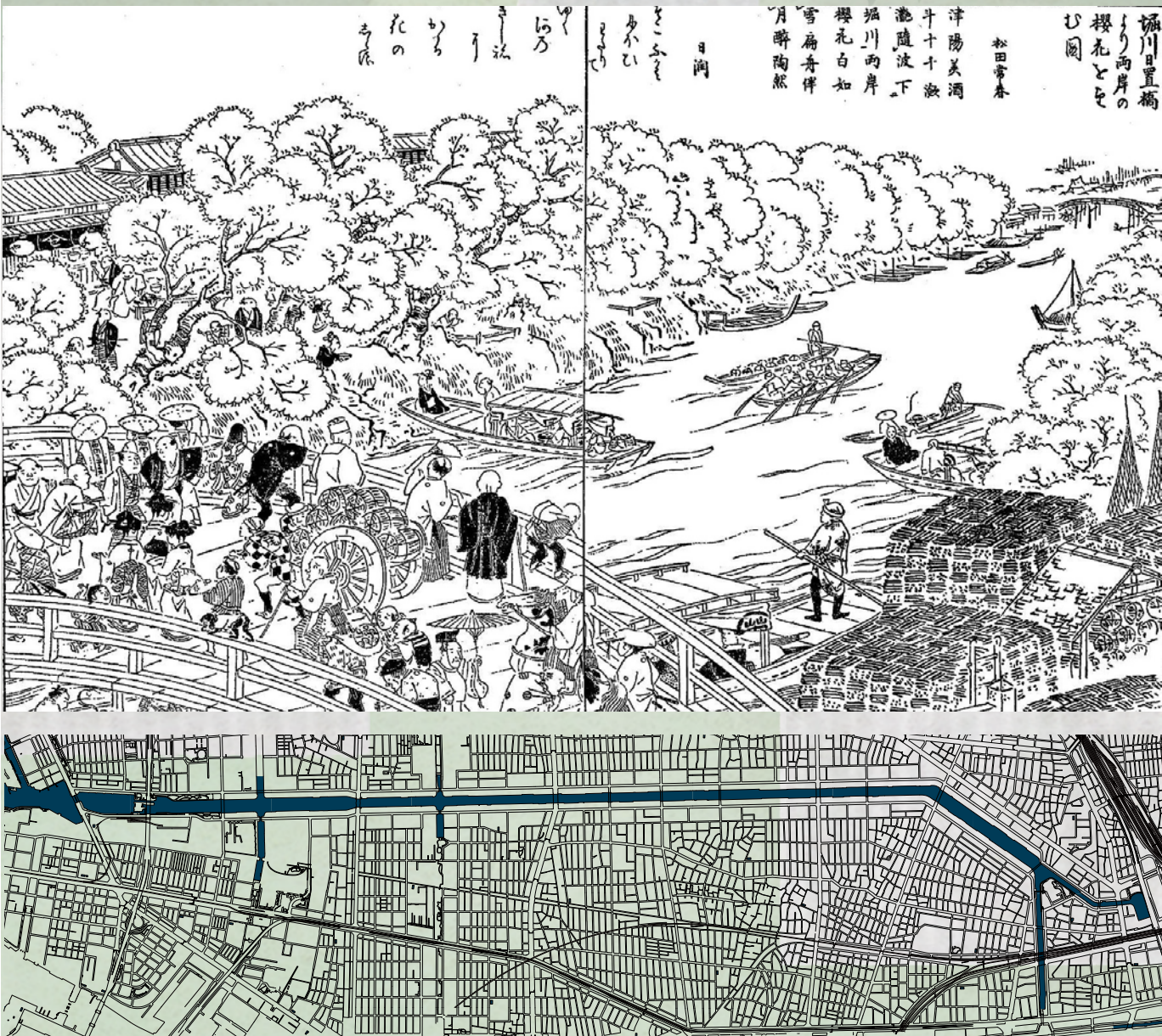
可視化させ、運河特有の魅力に気付くきっかけを産む。

水面の日々の変化に感覚のスポットを当て人々が自然と運河を眺める行為を誘う。

その現象の魅力に名古屋市の人々が「気が付く事」が、

にぎわいの先の到達点として未来に美しい運河を残す原動力となる事を私達は信じてい。

1. 背景



かつては「東洋一の大河」と呼ばれ、名古屋港と都心を結ぶ水運による物流の軸として栄えた中川運河。しかし、現代のスピード化された社会では、自動車、トラックなどの陸運が主となり、水運の需要が減り、衰退し、人々は中川運河と疎遠となり、魅力を見失ってしまった。

引用元: <https://dai-nagoyatours.jp/past/8837.html>

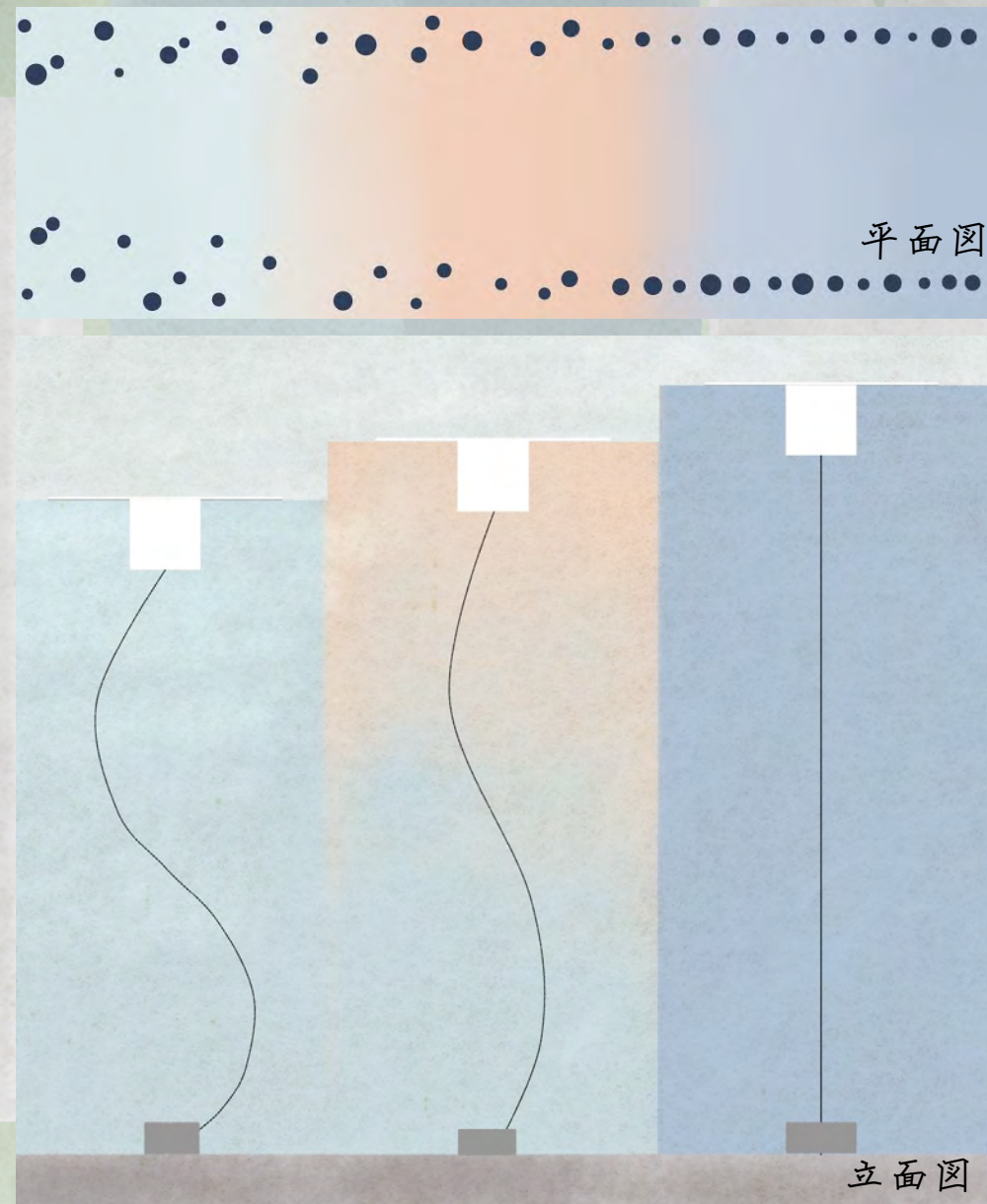
2. 水門の開放



現状、中川運河は水の動きが無く、水質も悪く、澱んでいる。中川運河と名古屋港を結ぶ中川口通船門を開き、潮の満ち引きを活用し、水位の変化、水の流れを生み出すことで、水を少しずつ綺麗にする。

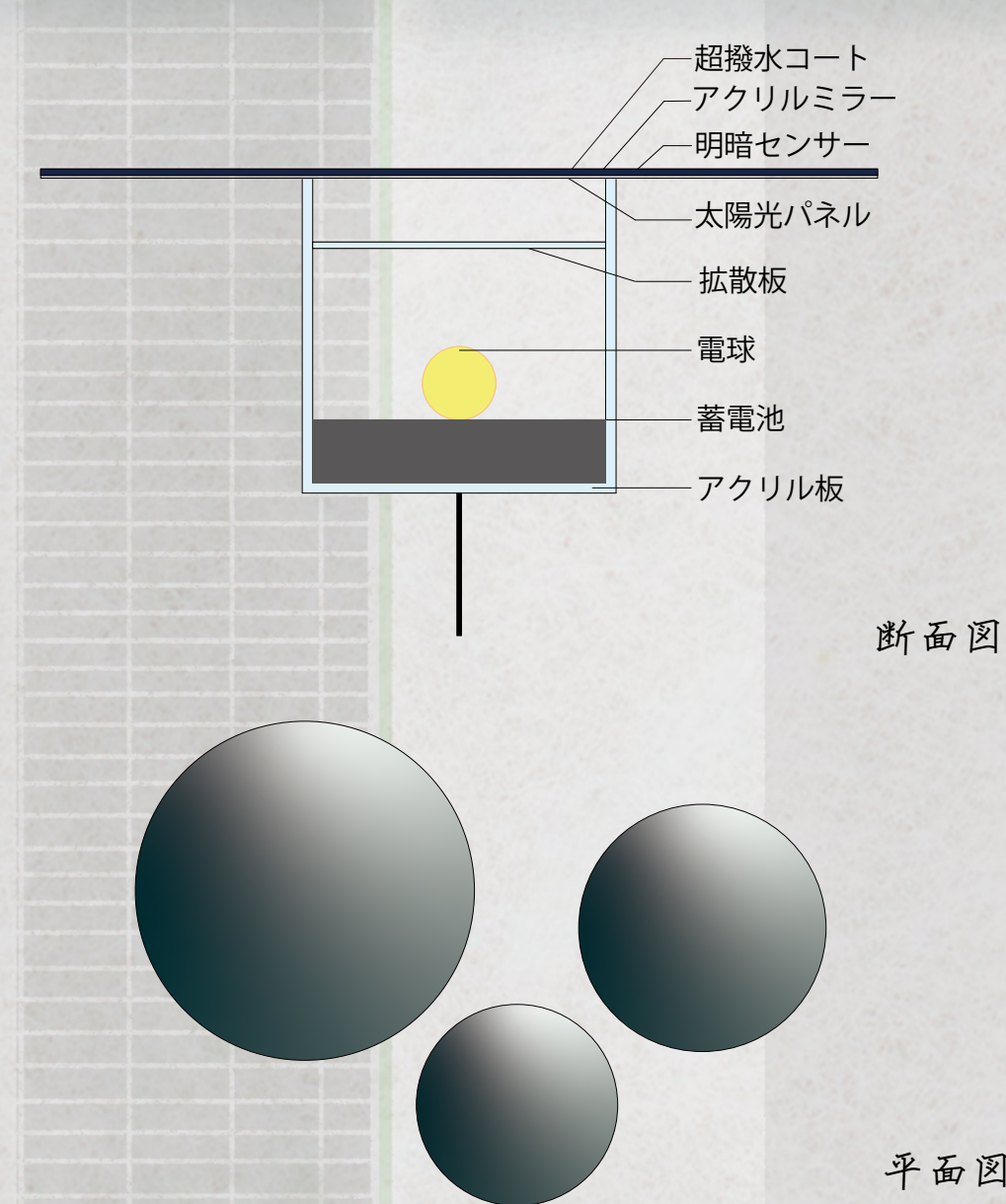
引用元: <https://www.port-of-nagoya.jp/kanko/kankospot/1001981.html>

3. 仕組み



水位が低い朝はひもが緩み、水流や風などの影響で水平方向に移動する。夕方は少し水位が上昇し、移動の範囲が縮小する。夜はひもが真っ直ぐに張り、照明は一直線に並ぶ。この仕組みが水位の可視化となる。

4. 詳細図



明るい時間は、太陽光パネルにて発電し、鏡面の役割、として都市、環境を映す。暗い時間になると、運河を照らす照明となる。

昼の景色



夜の景色

